

第 1 8 回

三重県文化賞受賞者名簿

令和元年 5 月 2 6 日

三 重 県

第 18 回三重県文化賞 総評

三重県文化賞は、三重県の文化振興に貢献し、その活動や功績が優れた個人・団体（以下「個人等」という。）を讃えることにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標になるようにという趣旨で設けられた顕彰制度である。

表彰の体系は、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動と功績が優れ、本県の文化向上に貢献した個人等を対象にしている文化大賞、文化功労賞及び文化奨励賞と、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動で将来一層の向上が期待される個人等（県内在住者又は三重県出身者に限る。）を対象にしている文化新人賞からなる。

平成 13 年度の第 1 回表彰から平成 29 年度の第 17 回表彰までの受賞者数は 240 名・団体（以下「名」という。）である。

受賞候補者の推薦は、公募により、自薦、他薦を問わない。

第 18 回目になる今回は、平成 30 年 7 月 26 日から 9 月 25 日まで募集を行ったところ、37 名の方からの推薦があり、受賞候補者は 32 名となった。

【募集結果】

受賞区分	推 薦 数	受賞候補者数
文 化 大 賞	16	11
文化功労賞	2	2
文化奨励賞	13	13
文化新人賞	6	6
計	37	32

※上記のうち、「推薦数」と「受賞候補者数」の件数の相違については、受賞候補者に対し複数名の推薦があったことによるもの。

各賞の受賞者については、三重県文化賞表彰要綱及び三重県文化賞実施要領の規定に基づき、学識経験者、芸術文化関係者等 10 名で構成する第 18 回三重県文化賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）の選考を経て、知事が決定する。

選考委員会では、推薦書、履歴・業績調書、履歴・業績を示す資料を基に、必要に応じて内容の確認や追加資料の提出を求め、厳正かつ公正に選考を行った。

選考委員会における各賞の選考過程は次のとおりである。

文化大賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が極め

て優れ、三重県の文化の向上に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って 4 名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考では様々な観点から議論がなされたが、投票の結果、美術分野（陶芸）の林克次さんを選出した。

文化功労賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が優れ、三重県の文化の活性化に貢献した個人等」に授与するもので、今年度は 2 名の推薦にとどまった。

選考委員会の判断により、文化大賞の候補者 5 名をこの賞区分に加え、7 名を対象に第一次選考を行った結果、上位 3 名を第二次選考の対象者とした。

第二次選考では、さらに文化大賞の候補者 2 名をこの賞区分に加え、5 名を対象に選考を行った。第二次選考の 5 名の活動と功績は優れた水準を維持しており、優劣つけがたい状況であったが、三度の決選投票を経て、最終的に美術分野（水墨画）の多門志風（本名：多門健次）さん、美術分野（伊賀焼）の恒岡光興さん、演劇・舞踊分野（日本舞踊）の西川里寿（本名：水野壽美）さんの 3 名を選出した。

文化奨励賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動により功績を収め、三重県の文化興しに貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って 10 名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った 10 名の活動水準は高く、評価が伯仲する状況であったが、決選投票を経て、最終的に音楽分野（邦楽）の現代邦楽奏団「新しいぶき」、美術分野（石彫刻）の谷本雅一さん、音楽分野（尺八）の辻井甫山（本名：辻井孝史）さん、文学分野（文芸評論）の戸田真樹さん、文学分野（俳句）の西尾敬一さんの 5 名を選出した。

文化新人賞は、「県内在住者又は三重県出身者で、芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動で、将来一層の向上が期待される個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行った結果、受賞候補者 6 名全員を第二次選考の対象とし、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、音楽分野（ヴァイオリン）の岩田優里愛さん、文学分野（詩・短歌・俳句）の高藤典子さん、音楽分野（尺八）の竹内洋司さん、美術分野（日本画）の藤田哲也さん、文学分野（俳句）の森本昭子さんの 5 名を選出した。

選考結果を見ると、選考委員会での真摯な議論により、各賞とも素晴らしい方々を選出することができた。受賞された皆様におかれては、今後ま

すまずのご活躍と、三重県の文化レベルの一層の向上に寄与していただくことを期待したい。

今回の受賞候補者を分野別で見ると、美術分野 5 名、文学分野 4 名、音楽分野 4 名、演劇・舞踊分野 1 名であった。

美術分野、音楽分野、文学分野での推薦が多く、これらの分野で活躍される方々の層の厚さが窺われる一方、写真やメディア芸術の分野の推薦がなかったことから、今後、幅広い分野からの推薦をいただけることを期待する。

なお、文化功労賞の推薦件数が 2 件と例年より大幅に少なかったことから、第 19 回以降は、より多くの、そして、より多彩な文化活動に携わっている方々の成果が多く推薦されることを願う。

最後に、三重県の文化の向上に寄与するため、三重県の文化活動のさらなる活性化と向上のための礎となることを願う。そのためにも、三重県文化賞の意義をより明快に県民に認知していただけるよう、広報をさらに充実することで、幅広い分野や多くの地域の方々からの積極的な応募につながることを切望する。

第 18 回三重県文化賞選考委員会

(受賞候補者名は各賞五十音順)

第18回三重県文化賞受賞者

(受賞者名)	(住所)	(活動分野等)
〔文化大賞〕		
林 克次 (76歳)	四日市市	美術分野(陶芸)
〔文化功労賞〕		
多門 志風 (83歳)	津市	美術分野(水墨画)
(本名:多門 健次)		
恒岡 光興 (79歳)	伊賀市	美術分野(伊賀焼)
西川 里寿 (80歳)	四日市市	演劇・舞踊分野(日本舞踊)
(本名:水野 壽美)		
〔文化奨励賞〕		
現代邦楽奏団「新しいぶき」	四日市市、東員町	音楽分野(邦楽)
谷本 雅一 (43歳)	名張市	美術分野(石彫刻)
辻井 甫山 (68歳)	松阪市	音楽分野(尺八)
(本名:辻井 孝史)		
戸田 真樹 (70歳)	松阪市	文学分野(文芸評論)
西尾 敬一 (78歳)	志摩市	文学分野(俳句)
〔文化新人賞〕		
岩田 優里愛 (25歳)	津市	音楽分野(ヴァイオリン)
高藤 典子 (69歳)	松阪市	文学分野(詩・短歌・俳句)
竹内 洋司 (32歳)	伊勢市	音楽分野(尺八)
藤田 哲也 (40歳)	桑名市	美術分野(日本画)
森本 昭子 (67歳)	四日市市	文学分野(俳句)

(各賞五十音順、年齢は令和元年5月26日現在)

賞別 文化大賞 活動分野等 美術分野（陶芸）

名 前	住 所	受 賞 理 由
はやし かつじ 林 克次 (76 歳)	四日市市	氏は、伝統的な技法を尊重しつつも革新的な技法にも挑戦し、とりわけタタラ技法に独自の世界を開拓し、昭和 47 年に「朝日陶芸展」特別賞、「光風会展覧会」光風工芸賞を受賞するなど、陶芸家として長年にわたる優れた業績があり、昭和 58 年には三重県文化奨励賞を受賞している。 また、自宅の工房で陶芸教室を開き、人材の育成、後継者の発掘に努めているほか、社会福祉施設においても陶芸を教え、高齢者や体に障がいのある人などの生きがいを高め、社会復帰と自立の促進に貢献している。 さらに、平成 6 年には、第 9 回国民文化祭三重県実行委員会に企画委員として参加し、国民文化祭の成功に多大な協力・支援を行う一方、三重県陶芸作家協会（後の三重県陶芸協会）の設立にも参画し、平成 6 年の設立以降、同協会の事務局長、会長、理事を歴任し、同協会の主要事業として開催されてきた「三重のやきもの展」を通じ、陶芸の振興、情報発信及び人材の育成に貢献している。 また、平成 11 年からは、毎年 5 月にいなべ市藤原町で「炎のイベント・窯炎と薪能」を開催するなど、文化発信による地域おこしにも貢献している。 氏のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。

賞別 文化功労賞 活動分野等 美術分野（水墨画）

名 前	住 所	受 賞 理 由
たもん しふう 多門 志風 たもん けんじ (本名：多門 健次) (83 歳)	津市	氏は、若くして水墨画に魅せられ、独学で技法を学び、活動に入った。作品発表を続ける一方、自らも水墨画研究グループ墨志舎を主宰し、40 年以上にわたり水墨画の振興に努めてきている。 「久居市展」において、平成 8 年に岡田文化財団賞、平成 9 年に市議会議長賞、平成 10 年及び平成 12 年に市長賞を受賞、平成 11 年には久居文化芸術大賞を受賞している。また、平成 22 年及び平成 23 年に「雪舟国際美術協会展」特別賞を受賞し、さらに、平成 15 年以降、「エイズチャリティ美術展」において、トップアーティスト賞等を受賞している。一方で、平成 15 年の「日豪芸術交流祭」、平成 17 年の「中日現代国際美術展」等において、国際的な賞を複数受賞している。 平成 7 年以降、自宅、職場サークル、公民館講座の講師として指導・啓発活動を行い、久居文化協会副会長、美術部門代表理事を務めている。また、公立病院において作品展示を行い、水墨画の啓発や来院者の憩いの場を提供している。 氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。

賞別 文化功労賞 活動分野等 美術分野（伊賀焼）

名 前	住 所	受 賞 理 由
つねおか みつおき 恒岡 光興 (79 歳)	伊賀市	氏は、作陶活動を 50 年以上続け、平成 13 年に「朝日陶芸展」入選、平成 15 年には「日本陶芸展」で入選している。 昭和 63 年に日本工芸会正会員に認定され、平成 6 年には、伝統的工芸品産業の振興に多大な貢献をしたことで通商産業省中部通商産業局長から表彰されている。また、平成 22 年に伝統工芸士に認定されるとともに伝統的工芸品産業功労者として表彰され、平成 29 年には瑞宝単光章を受章している。 伊賀焼振興組合等の役員を歴任し、日本工芸会正会員・伝統工芸士として後進の指導・育成に努めてきた。平成 26 年には伊賀焼伝統技術保存会を創設し、会員展を毎年開催している。また、自宅の「まちかど博物館」では作品展示等を実施している。 氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。

賞別 文化功労賞 活動分野等 演劇・舞踊分野（日本舞踊）

名 前	住 所	受 賞 理 由
にしかわ さとじゅ 西川 里寿 みずの すみ (本名：水野 壽美) (80 歳)	四日市市	氏は、西川流の師範として昭和 39 年に「里寿会」を結成し、昭和 50 年には「富田音頭」の再興と普及に努めている。また、昭和 59 年に四日市地域総合会館「あさけプラザ」落成式典での祝舞を行っている。 地域の幼稚園で日本舞踊の指導や文化庁補助事業の「伝統芸能日本舞踊こども教室」を継続して行うなど、子どもたちが日本の伝統文化に触れる活動を精力的に続けてきており、日本舞踊の普及・発展に貢献している。 これらの功績から、平成 23 年に四日市市文化功労者表彰を受けている。その後も平成 25 年の四日市市とロングビーチ市との姉妹都市提携 50 周年記念式典において日本舞踊を披露し、平成 27 年に三重県立四日市高等学校の生徒がインドネシアの高校生と文化交流する際に、日本舞踊の指導を行い、平成 29 年には三重県立四日市高等学校とベトナムとの文化交流にも尽力するなど、日本舞踊を通じた国際交流を広げている。 氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。

賞別 文化奨励賞 活動分野等 音楽分野（邦楽）

名 前	住 所	受 賞 理 由
げんだいほうかくそうだん 現代邦楽奏団 しん 「新しいぶき」 (代表) はまぐちきほうざん 浜口喜峰山 (尺八・笛) れいめいひろこ 麗明廣子 (箏・十七絃)	四日市市、 東員町	平成4年に発足し、平成19年度の三重県文化賞の文化新人賞を受賞した「現代邦楽奏団グループ竹友」を、平成24年に開催された第21回邦楽コンサートを機に、演奏レベル向上、企画規模拡大に向け改名している。 活動のコンセプトは、箏、尺八などの伝統楽器とともに、異種ジャンルとのコラボレーションによって、古いくくりにとらわれない、今の時代に磨かれた邦楽曲やジャンルにとらわれない曲の演奏を通じ、邦楽器の音色と各種合奏の魅力を多くの人に感じ取ってもらうことであり、こうした邦楽普及推進活動を通じて地域文化の高揚に貢献している。 和楽器演奏に携わろうとする人の裾野拡大等を目指した活動をしており、後進の育成に積極的に携わっている。 当団体は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別 文化奨励賞 活動分野等 美術分野（石彫刻）

名 前	住 所	受 賞 理 由
たにもと まさかず 谷本 雅一 （43 歳）	名張市	氏は、19 歳の頃から自己の事業の関係で石材の加工をしてきた。 平成 13 年には、初めて石彫刻に挑戦し、第 50 回記念全国青年大会で最優秀賞を受賞し、平成 24 年には、第 2 回日本石塔展覧会（八角五輪塔）で優秀賞を受賞。同年以降、岡崎石材ストーンフェア石材グランプリでは、一般社団法人伝統的工芸品産業振興協議会賞等を受賞している。また、県内では、みえ県展で彫刻部門優秀賞等を受賞している。 石材技能者として平成 26 年に卓越技能者表彰を受けたほか、三重県石材技能士会の立ち上げにも尽力している。 地域においては、保育園への石像の寄贈や歴史的灯籠の修復などを行っている。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別 文化奨励賞 活動分野等 音楽分野（尺八）

名 前	住 所	受 賞 理 由
つじい ほざん 辻井 甫山 （本名：つじい たかし 辻井 孝史） （68 歳）	松阪市	氏は、昭和 51 年から現在に至るまで、公益社団法人日本尺八連盟会員として活動し、平成 29 年度からは、同連盟三重県支部副支部長として活動している。 昭和 51 年には、都山流尺八師範主席、昭和 58 年には、都山流全国尺八コンクール大会主席、平成元年には、邦楽オーディションで 4 部門に合格している。また、所属しているグループ真珠（あらたま）が、平成 12 年に三重県文化奨励賞を受賞している。 また、尺八演奏を幅広く盛んに行い、尺八の古典芸能から現代曲まで独自の研究を重ね、独創的な尺八演奏でその魅力を伝えている。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別 文化奨励賞 活動分野等 文学分野（文芸評論）

名 前	住 所	受 賞 理 由
とだ まさき 戸田 真樹 (70 歳)	松阪市	氏は、昭和 47 年、文芸同人誌「文宴」に参加以来、文芸評論活動が続けている。 昭和 53 年には、三重県文学新人賞（評論部門）を受賞している。 坂口安吾論、室生犀星論を経て、「鏡花雑感」（平成元年）をはじめとする泉鏡花文学における今日的意義の解明に意欲的に取り組んでいる。 津、鈴鹿地域で講演を重ね、平成 29 年 1 月には、泉鏡花評論集「夢のゆくえ」を自費出版した。この出版の経緯や文学的な評価が、鏡花研究機関の注目を浴び、新聞等に掲載されるなど、話題となった。また、鏡花の現代的意義についての考察を新聞に寄稿している。 さらに、四日市文芸賞審査員や津文学研究会等の講師を務めている。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別 文化奨励賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
にしお けいいち 西尾 敬一 （78 歳）	志摩市	氏は、平成 8 年に句を創作して以降、平成 10 年「山繭」への入会から頭角を現し、県内外を問わず数々の大会で上位入選を果たしており、公益社団法人俳人協会の全国俳句大会では準賞に輝いた。 それを機に、句集「箱眼鏡」を上梓、平成 28 年度俳人協会賞の予選を通過し、その名を全国に知らしめた。 また、平成 24 年、志摩市俳句協会の事務局長として、三重県文化賞文化新人賞の受賞に貢献したほか、三重県俳句協会の理事等でも活動し、地元の生涯学習講座等の講師、月例通信句会、吟行句会、嶋田青峰顕彰俳句会等を通じて、人材の育成、後進の指導にも努めている。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別 文化新人賞 活動分野等 音楽分野（ヴァイオリン）

名 前	住 所	受 賞 理 由
いわた ゆりあ 岩田 優里愛 （25 歳）	津市	氏は、幼少期よりヴァイオリンを始め大学在学時に本格的に演奏会に出演している。 平成 26 年には、みえ音楽コンクール大学生・一般の部の第 1 位及び岡田文化財団賞を受賞している。さらに、平成 29 年には、「日本クラシック音楽コンクール全国大会」への出場を果たし、平成 30 年には、三重県総合文化センターにてヴァイオリン・リサイタルを開催している。 小学生から 50 代までの幅広い年齢層の人にヴァイオリンを指導するとともに、毎年、地元幼稚園で開催されるコンサートに出演するなど、音楽を通じ、地域の発展に貢献している。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。

賞別 文化新人賞 活動分野等 文学分野（詩・短歌・俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
たかふじ のりこ 高藤 典子 （69 歳）	松阪市	氏は、中学校の教員退職後、平成 20 年より地元公民館や小学校にて、短歌、俳句、俳画教室の講師として本格的に活動を開始している。 平成 24 年には、「第 13 回白鳥省吾賞」優秀賞、平成 26 年及び 27 年には、「みえ県民文化祭文芸大会」優秀賞を受賞するなど、数多くの受賞歴を有している。 また、同人誌「文宴」と「葦」に詩やエッセイなどの作品を発表するとともに、平成 24 年には詩集『ハレとケ』を出版している。次いで平成 30 年には詩とエッセイの文庫本『ハレとケ』を出版するなど積極的に創作活動を続けている。 さらに、地元公民館や小学校での俳句等の指導を通じ、後進の指導と文学の発展にも貢献している。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。

賞別 文化新人賞 活動分野等 音楽分野（尺八）

名 前	住 所	受 賞 理 由
たけうち ひろし 竹内 洋司 （32 歳）	伊勢市	氏は、24 歳の時、尺八の音色に衝撃を受けて尺八を始める。 「尺八を身近に」「伝統の革新」というテーマで活動を展開し、活動初年度から洋楽器と連携し、四日市市政施行 120 周年記念事業への参加や諸団体が主催するコンサートに多数出演するほか、尺八の伝統のみならず、新たな価値の創造、普及にも努めている。 また、地域納涼祭への参加や小学校での尺八体験の講師も務めるなど、尺八を通じ地域の発展にも貢献している。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。

賞別 文化新人賞 活動分野等 美術分野（日本画）

名 前	住 所	受 賞 理 由
ふじた てつや 藤田 哲也 （40 歳）	桑名市	氏は、大学院修了後、日本画の制作を本格化し、日本美術院展覧会を中心に美術館や百貨店において、個展、グループ展での発表を続けている。 平成 22 年に「みえ県展」最優秀賞を受賞するとともに、日本美術院の院友として活躍している。 古典絵画研究を通じて、描かれた当時の同素材・同技法にこだわった氏の作品は、高く評価されている。 また、みえ県展の運営委員、地元公民館での日本画講師のほか、愛知県立芸術大学では文化財絵画の模写制作班の代表を務めるなど、後進の指導と美術の発展に貢献している。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。

賞別 文化新人賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
もりもと しょうこ 森本 昭子 （67 歳）	四日市市	氏は、平成 21 年に俳誌「菜の花」に入会し創作を始め、平成 23 年には三重県俳句協会、平成 26 年には現代俳句協会にそれぞれ入会し、積極的に創作活動が続けている。 平成 29 年に現代俳句協会が主催する「東海地区新年句会」優秀賞、平成 30 年には、全国俳誌協会が主催する「全国俳誌コンクール」で長峰竹芳氏特選を受賞するなど、諸団体が主催する俳句大会において数多くの受賞歴を有している。 また、地元で開催される俳句講座において、他の受講者とともに日々研鑽に励むとともに、披講や会報作成、講座の運営に携わるなど、俳句文化の発展に貢献している。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。

第18回 三重県文化賞の概況

1 賞の趣旨

三重県の文化振興に貢献し、その活動及び功績が優れた個人・団体を表彰することにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標にもなるよう、顕彰制度として三重県文化賞を設ける。

2 募集期間

平成30年7月26日から9月25日まで

3 受賞候補者の状況

文化大賞	11名	
文化功労賞	2名	
文化奨励賞	13名	
文化新人賞	6名	総数 32名

4 受賞者の状況

(1) 分野別受賞者数

賞区分	分 野										計
	文学	美術	音楽	演劇・ 舞踊	写真	メディア 芸術	伝統 芸能	生活 文化	学術	その他	
文化大賞		1									1
文化功労賞		2		1							3
文化奨励賞	2	1	2								5
文化新人賞	2	1	2								5
計	4	5	4	1							14

(2) 地域別受賞者数

賞区分	地 域（各地域防災総合事務所・地域活性化局）										計
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	南勢志摩	伊賀	紀北	紀南	県外	
文化大賞		1									1
文化功労賞		1		1			1				3
文化奨励賞		1			2	1	1				5
文化新人賞	1	1		1	1	1					5
計	1	4		2	3	2	2				14

三重県文化賞歴代受賞者（第1回～第18回）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第1回	平成13年度	北村 憲司（児童文学）	勝美 伊三次（日本舞踊） 保黒 時男（植物生態学調査）	あの津っ子の会（児童文学） 伊勢管弦楽団（交響楽） 伊藤 宏樹（吹奏楽） 落合 花子（詩歌） 川端 守（地域づくり活動）	新井 明子（演劇） 津手づくり絵本の会（児童文学） 坪井 智子（箏曲） 伴 剛一（作曲活動） 東川 和子（川柳） 平田 環（俳句）
第2回	平成14年度	（該当者なし）	亀山絵本と童話の会（児童文学） 坪島 土平（陶芸） 三重ヴォークスボーナ（合唱）	伊勢シンフォニックバンド（吹奏楽） 菅生 三千代（箏曲） 羽場 正一（演劇） 黛 元男（詩歌） 南川 憲生（彫刻）	池田 比早子（ひのきクラフト） 鎌田 美津子（写真） ゴルジ隊（演劇） 阪野 優（マンボ研究） 田中 豊（演劇） 中森 勉（写真） 平賀 節代（俳句） 森田 茂治（詩歌）
第3回	平成15年度	稲垣 克次（彫刻）	川北 佐平治（伝承芸能） 中村 武郎（ギター・マンドリン） 山口 勲（俳句）	金子 聡（環境科学研究） 北住 淳（ピアノ演奏） 近藤 英子（彫刻） 森 一蔵（萬古焼） 山内 玲子（箏曲）	石井 烈（俳句） 佐々木 経子（俳句） 東 勝美（児童文学） Building Bridges（文化資産等の保護） 津軽三味線兄弟ユニット KUNI-KEN（津軽三味線） 三浦 恭子（インド舞踊） 水野 昌光（地域の映画館を活用した市街地活性化）
第4回	平成16年度	ヴォーカルアンサンブル《EST》（合唱）	岡村 信也（吹奏楽） 土屋 喜八郎（能楽） 中林 長生（俳句）	笠井 幹夫（オペラ） 木岡 ふみ子（箏、三絃） 佐々木 宏子（ピアノ演奏） 清水 正明（郷土文学者・文学作品の発掘、紹介） 谷口 智行（俳句）	阪本 青悠（書） 高崎 一郎（詩） 中山 かほり（吹奏楽） 藤田 智子（箏、十七絃等） 松田 実靱（小説） 三重大学ダンス部（ダンスの創作）
第5回	平成17年度	野口 巴織子（日本画）	関宿町並み保存会（関宿の町並み保存） 田村 美保子（大正琴） 間瀬 昇（評論、小説）	田村 公男（洋画） 東海 かおり（箏、三絃） 福山 良子（俳句） 松嶋 節（小説） 山村 楽女（日本舞踊）	伊勢童話をつくる会“ほほえみ”（童話） 麻植 慶治（雅楽） 奥山 和子（俳句） 後藤 千佳子（筆名；伍東ちか）（現代詩） 津村 美香（フラワーデザイン） 人情集団An-Pon-Tan（バリアフリーミュージカル）
第6回	平成18年度	谷本 光生（伊賀焼）	岡森 章（伊賀焼） 森 浩一（能楽・狂言）	川島 雅樹（声楽・オペラ・合唱） 水谷 幸勉（工芸美術） 宮村 典子（川柳） 村上 しいこ（童話） 三重オペラ協会（オペラ）	佐藤 千恵（俳句） みえ熊野学研究会（地域資産研究）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第7回	平成19年度	宮田 正和（俳句）	越知 愛幸子（合唱） 中川 忠峰（根付） 吉居 清雄（堅塩作り）	中山 かほり（吹奏楽） 西田 誠（俳句） 秦 昌弘（郷土作家の研究） 服部 博之（和太鼓） 馬場 浩子（声楽）	アモーレかめやま（大正琴） 梅山 憲三（現代詩） 垣内 美穂（詩・児童文学） 桐生 智晃（吹奏楽） 葛原 郁子（短歌） 現代邦楽奏団グループ竹友（邦楽） 比留間 雅弥真天（邦楽）
第8回	平成20年度	小野 雅生（洋画）	稲垣 無得（書） 倉田 しげる（俳句）	伊藤 政美（俳句） 岩崎 孝子（洋画） 津田 親重（日本画） 野村 幸廣（ミュージカル） 山本 翠松（伝統漆工芸）	秋野 信子（詩・小説） 岡本 妙子（詩） 劇団員弁川（演劇） 福田 容子（俳句）
第9回	平成21年度	園田 幸男（吹奏楽）	赤井 重規（能楽） 原 直矢（彫刻） 鍋島 泰（方言の研究）	橋本 輝久（俳句） 三重県吹奏楽連盟（吹奏楽） 田中 厚好（彫刻） 青木 久佳（短歌） 岸 武男（演劇）	山口 道子（版画） 前田 照子（俳句） やまぎり 萌（現代詩） 林 英一（多文化共生の研究） 長岡 むつみ（リコーダー指導） 中川 左和子（短歌）
第10回	平成22年度	長島 幹生（写真）	相賀 泰（神楽） 衣斐 弘行（評論・小説の執筆、郷土作家の顕彰） 川合 俊平（合唱）	小河 柳女（川柳） 津奈乃会（邦楽） 矢田 新男（写真） 矢吹 紫帆 （音楽による地域振興）	小早川 涼（小説） 佐藤 ゆかり（女性史の研究） 多気町劇団白つばき（演劇） 橋倉 久美子（川柳） 橋本 石火（俳句） 堀内 晶（地域の歴史・文化と戦争体験の語り継ぎ） 村田 三郎（地域文化の紹介と観光ボランティアガイド） 村山 砂由美（詩）
第11回	平成23年度	稲葉 祐三 （声楽・合唱・オペラ）	田嶋 禮子（マリンバ） 玉置 千代（児童文学） 野嶋 峰男（木漆工芸）	伊藤 清和（美術の振興） 神田 ひろみ（俳句・評論） 清崎 博（安乗の人形芝居） 山崎 龍芳（伊賀焼） 四日市ジュニア・アンサンブル（合奏等）	越知 ひとみ（音楽の普及） 小津 由実（俳句） 斎宮アカデミー（歴史・文化） 清水 潮（萬古焼） 中西 紀和（陶芸）
第12回	平成24年度	橋本 三重子 （日本画、書道）	伊藤 政美（俳句） 角谷 英明（陶芸） 菅生 和光（吹奏楽、指揮者）	桐生 智晃（吹奏楽） 坂尾 富司（写真） 中村 かおる（箏曲） 西田 真也（陶芸） 三重県陶芸協会 （「焼きもの」の振興）	真山 隼人（浪曲） 志摩市俳句協会（俳句） 手塚 泰子（俳句） 西村 健二（郷土史研究） 堀川 孝子（詩） 村松 とし子（短歌）
第13回	平成25年度	三重フィルハーモニー 交響楽団（交響楽）	羽場 正一（演劇） 羽根 功二（合唱） 森 悦彦（作詞・作曲）	小川 匪石（書） 紀の川良子と市民劇団 （演劇を通じた地域振興） 阪本 青悠（書） 達知 和子（短歌） 比留間 雅弥真天（箏・三弦）	岩田 典子（俳句） 服部 真紀子（陶芸） 廣 めぐみ（声楽）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第14回	平成26年度	加藤 子華（書）	谷本 景（伊賀焼） 森 正（陶芸） 脇谷 実千子（児童文学）	尾崎 亥之生（俳句） 武村 豊徳（陶芸） 伴野 節子（箏・三絃） 吉川 光和 （競技かるたの読み手） 吉崎 柳歩（川柳）	伊藤 圭佑（津軽三味線） つげ みさお（児童文学） 西田 昂平（声楽） 和太鼓 凜（和太鼓）
第15回	平成27年度	三代 清水 醉月（陶芸）	加藤 純一（詩吟） 福田 勝（能楽） 松山 好成（組紐）	印藤 幸恵（陶芸） 坂口 緑志（俳句） 田邊 三郎（写真） 中井 智弥（箏曲） 安田 隆亮（絵画）	牛場 寿子（写真） 大形 弥生（木工） 駒田 早代（津軽三味線） 野瀬 みつ子（写真） 平野 透（俳句）
第16回	平成28年度	錦 かよ子（作曲）	石井 いさお（俳句） 矢田 新男（写真）	梅山 憲三（現代詩） 岡本 千尋（俳句） 加藤 秀樹（陶芸） 憲旺会（尺八） 伴 剛一（作曲）	伊藤 潤一（書） 前田 祐英（木工） 森川 眞理子（パステル画） 森下 充子（俳句） 横田 千明（彫刻）
第17回	平成29年度	合唱団「うたおに」（合唱）	井上 博暁（俳句） 菊川 淑子（能） 桐生 智晃（吹奏楽）	牛場 和美（写真） 紺谷 猛（小説） 近藤 たみ（陶人形） 藤原 伸久（小説） 森 玲子（箏曲）	赤野 四羽（俳句） 岡島 千秋（俳句） 久保 恵子（詩・児童文学） 小林 美咲（声楽） 白木 千華（陶芸）
第18回	平成30年度	林 克次（陶芸）	多門 志風（水墨画） 恒岡 光興（伊賀焼） 西川 里寿（日本舞踊）	現代邦楽奏団「新しいぶき」 （邦楽） 谷本 雅一（石彫刻） 辻井 甫山（尺八） 戸田 真樹（文芸評論） 西尾 敬一（俳句）	岩田 優里愛（ヴァイオリン） 高藤 典子（詩・短歌・俳句） 竹内 洋司（尺八） 藤田 哲也（日本画） 森本 昭子（俳句）